

目的 現在、住宅の間取りを考えると、子供が「寝る」「勉強する」「遊ぶ」為の、いわゆる『子供部屋』を計画することが一般的である。その理由として、子供の自立心を育てる為、勉強の為、などが考えられる。ところで、実際部屋を使用する子供達はどの様に感じ、使用しているのであろうか。人格の基礎を形成する時期にあたる小学生を対象に調査し、住宅計画における『子供部屋』のあり方について再考する為の基礎資料を得ることを目的とする。

方法 都内及び近県の8小学校の児童を対象に、1990年12月から翌年1月にかけて直接配布・直接回収による自記法で行った。

結果 (1) 子供部屋の所有率は専用が約2割、兄弟・姉妹と共用(以下共用)が約6割であった。専用を希望する率は低学年でも約6割、高学年で約9割と、学年上昇と共に増加傾向をしめした。また、その理由としては、静かに勉強できるから(約3割)親がうるさいから(約2割)自由に遊べるから(約7割)であった。(一人が多答有り)(2)夜寝る時、専用部屋を与えられている子供の内、約3割が家族と同じ部屋で寝ている。また、現在部屋に一人で寝ている子供程、一人で寝る事を希望している。この事から、一人で寝ると言う習慣は慣れの要素が強いと考えられる。(3)勉強する場所については、専用部屋を与えられていても自分の机を使用する子供は、約半分程度であった。勉強時間は、子供部屋無し、共有、専用の順に増加傾向を示した。(4)家の中での音については、約3割が気になると答えた。また、自由記述で外の音を気にする子供が多くみられた。